寺報
清風
第184号
発行人
伊勢　徳
発行所
真宗大谷派　称念寺
知立市新地町西新地65
TEL〈0566〉83-8888
FAX(0566)84-1262
www.shounenji.com
印刷
有限会社　クシロ印刷

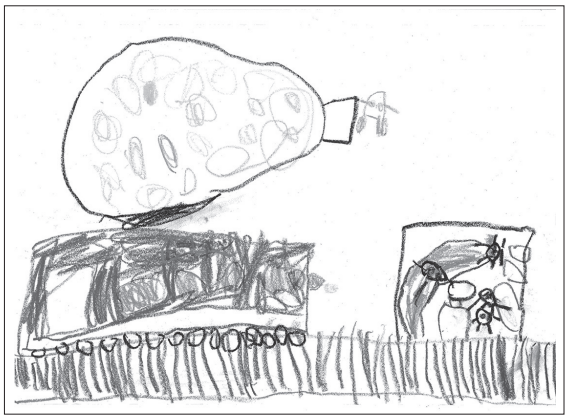
境内カラス戦記

今年の春先、本堂正面にあるイブキの古木の樹上に、鴉が巣を作った。その頃、やたらと境内の桜の枝端が地面に散らばっており、営巣を予感してはいたが探そうにも、鬱蒼と茂るイブキの葉陰に巧妙に隠され見つけられなかった。だが門前の信用金庫の建屋上には常時、見張り役のカラスが待機しており、確信を持って慎重に探索すると木の周囲から一か所のみ、最上部まで見渡せる地点があり、頂上近くに直径四十センチ程の立派な巣が既に完成していた。私は敷地内からカラスを追い払うべく、ここ数年は実現させていた。遅ればせながら対処を開始したが、巣篭る母カラスをボッたところで三分もすれば舞い戻る為、この日から気の遠くなるような、私と彼らの互いの居場所を賭けた戦いが始まった。

欧米のホラー映画を観ていると、不吉で恐ろしい場面の前兆として頻繁にカラスが登場する。習性として動物の腐肉を喰らうことで、悪魔や恐怖、死を連想させる生き物として忌み嫌われているのだ。おまけに漆黒の外観と不快な鳴き声ゆえ、世界各地の昔話でも狡猾な悪者として語られてきた。名古屋でも栄四丁目のような混沌とした繁華街で、早朝に路上のゴミ袋に群がり、狂喜の雄叫びを上げながら残飯を漁る無数のカラスは、まさに世紀末の様相を想わせる。けれども私の場合、単に嫌いというのでなく、実害を伴ってきた。十年前に新本堂が建った当時、我が物顔のカラスが鬼瓦部分の釈迦の愛馬カンタカに陣取り、白い糞まみれの姿態が常態化していた。先般、静岡別院に法話を聴聞しに訪れた折も、地元の人から「電線の下を避けて歩くように」と注意を促されたが実際、傍らの鉄塔には喧しいカラスの大群が飛び回り、電線に沿うように道路上には白い線状の糞害があった。

とはいえ私にとって決定的であったのは、幼少の頃から共生してきた鳩が殺された事件であった。境内のイブキには長年、山鳩が代々住んでおり早暁から低音で「ホーホホッホー」と鳴く平和な声は、海外を含め二十年も故郷を離れ暮らした為か、不意に聞こえて来ると「帰ってきたな」というような安堵感があり、様々な記憶の断片の背景であり続けた。たまに餌も与えた。ところが数年前、大型のカラスとハトが喧嘩しており、自然界の出来事だと傍観していたが翌日の朝、かわいそうに内臓まで食べ散らかされ惨殺されていた。それまでも、様々なカラス対策を練り、グッズ

6月14日（日）午前7時
日曜おあさじ特別法話
法話　一楽　真　師（大谷大学前学長）



「プラネタリウム見学」徳風ほし組　田口新大

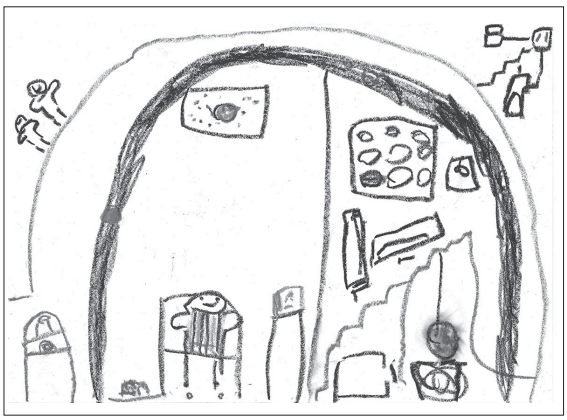
人間である限り、全ての人が考えたり見たりするのは自分中心　三義悦子

等を購入するなどして小競り合いを続けてきたが、「もう許せない」と何やら復讐心のような感情が沸き上がった。

カラスは毎年、三月頃に樹木や電柱に巣作りを始め繁殖期を迎える。称念寺の境内で彼らが好み巣を作りたがるのが、周囲を見渡せる頑丈なイブキだ。木の高さは三階建て新園舎と同じ位なので、十二メートル程か。暖かくなる五月にはヒナが産まれ、それから巣立つまでの約二カ月間、親ガラスは警戒心を高め非常に攻撃的になる。これまでも保育園の子ども達が襲われ、保育士も大声を出して脅すなどしてきたが、強者たる自覚をして小細工には内心嘲笑でもしていたことであろう。都度、最後には「園長先生、何とかして下さい」とお願いされてきた。かく云う私自身も、過去には何度も襲撃されている。境内を歩いている際、目線の届かない後方より、音を忍ばせ羽ばたきもせず超低空飛行で狙われ、接触の際に両足の爪でガシッと頭部を強烈に引っかかれ出血こそ無かったが、大人でもかなりの痛みを伴うものである。

恐竜時代の「翼竜（よくりゅう）」の子孫であろう、相手は自在に空を飛び回る魔王たる鴉、対する私の側では、戦場となる境内の小石を投げ付ける程度では全く歯が立たない。最も効果的な対策は牙城の巣を物理的に駆除することだが、害獣たるカラスでも「鳥獣保護管理法」という法律で守られる。その為、行政の許可なく捕獲したり、巣の駆除やヒナの殺処分も禁止されている。準ずるまでもなく殺す気は無いし、銃刀法違反ともなる弓矢式ボウガンでは極端過ぎる。古式の吹き矢など選択肢もあるが、他人様に当たってもいけない。長年の熟考と試行錯誤の末、適法かつ安全な私の武器はと云えば、約二キロその光が届く中国製の強力レーザーポインター、そしてスコープ付きライフル型空気銃と、取り回しの良いハンドガン式ガス銃に落ち着いた。仮に被弾すれば、まあ痛い。しかも装填するコンマ四グラムのＢＢ弾は、無論プラスチック製でなく、自然にも優しい天然植物成分由来で、微生物の分解により土に還るという念の入れようである。

私にしても、いつの間にか彼らの生態には随分と詳しくなった。街場のカラスは二種類、「嘴太鴉（ハシブトガラス）」と「嘴細鴉（ハシボソガラス）」とがある。似てはいるが其の名の通り素人でも見分けがつき、嘴（くちばし）が太い方は額（ひたい）が盛り上がり、より体躯が大きく攻撃的かつ肉食である。低めに「カアー」と澄んだ声で鳴く。歩き方にも特徴があり、両足を揃えジャンプしながら移動する。今年、境内に巣を作った種は後者であり、嘴が細く頭の形がスマートで、こちらは左右の足を交互に動かし、体を揺らし歩行する。若院の存在は「敵」と認知されており境内に居るだけで、お辞儀する動作と共に「ガァーガァー」と特徴的なしゃがれ声で要警戒の合図がなされ、私もその程度の鳴き声の聴き分けはできるようになった。三羽家族の小鴉の性別は不明だが、巣で雌が卵を温める間は、百メートル以内の見渡せる場所に遠目の利く雄が待機し見張り役をしている。私が境内から見渡すことのできる、つまり先方からも偵察できる範囲では、ビルのベランダ、屋上の給水タンクから電柱まで、馴染みの待機場所も把握済みである。小学校低学年程度の知能を持つと言われるが、知恵比べで負ける訳にはいかない。



「プラネタリウム見学」徳風つき組　小鹿　峻

イブキの脇に園舎が新築され、屋外非常階段から身を寄せることができるようになり、しばし近場の食物連鎖の頂点にいた、件（くだん）の嘴太鴉の、動きも緩慢（かんまん）となった熟年の母親の最後の出産であろうか、昨年はその卵の孵化の阻止に成功した。今回、私の作戦は、そも巣における産卵を防止することと修正した。今では狙いも正確に無駄な玉を浪費することなく、銃を二発も威嚇射撃すれば母ガラスを驚かせ

仏典マンガ

絵：小川ゆきえ

仏さまのおしえ

出典は『パンチャントラ』　インドの説話集、世界最古の物語集です。

飛び立たせることができる。折角のマイホームに暮らす産前の妊婦をイジメることに非難も覚悟の上、嫌がらせを繰り返し強制的に引っ越しさせることができれば最良である。さりとて巣の内部は視覚で確認することはできず、産卵後かどうかは不明のまま、既に卵があれば第二段階の、その孵化を中断させる戦略となる。特に気温の下がる朝夕、雨の時など繰り返せば、孵化が成立しないと想定してのことである。卵を複数産む母親が三週間、温め続ける期間を正確に定めることができれば私の勝利は近い。

かくてトランプ大統領と同様、都合の悪い邪魔者を何とかして排除しようと毎朝五時半より戦いに明け暮れつつ、されど私にとっては過去に訪れ即座に魅了されたテヘランの美しい街並や市場が破壊され、出会う度に親切にしてくれたペルシアの人々が殺されゆく現実に心を痛め、そうした各々の凡夫の宿業を「無碍（むげ）の眼」で見つめる阿弥陀さまに毎朝手を合わす生活を送っている。

［文章　若院］

若院の伝道掲示板

・振りかざす正義も常識も自我のうち
・無常の命明日死ぬなら何が大切
・明日ありと思うも散る桜と私
・正しさよりごめんなさいが関係を紡ぐ
・消えぬ煩悩長生きするほど四苦八苦

■講師紹介

一楽（いちらく）　真（まこと）師

昭和32年、石川県生まれ。平成21年に大谷大学の教授に就任され、その後に第29代目となる大谷大学学長となり、本年3月末に学長職を引退されたばかり。在任中は全国より仏教を学びに来た若い学生に、人生に悩み苦悩する若者達に、優しく真摯に向き合って来られた素敵な先生です。現在は小松市の宗圓寺のご住職をされています。著書『親鸞聖人に学ぶ－真宗入門』、『この世を生きる念仏の教え』（東本願寺出版）他。

■娑婆の縁尽きて

河合　克子　89　内幸町　2・28
鈴木　幹男　82　西町　3・15
石川　信生　87　中町　19
石川　光行　79　豊明市　4・1
岩田あゆみ　57　来迎寺町　9
中野　嘉子　95　安城市　11
渡邉　和哉　60　豊明市　11
久保田　宏　95　堀切　27
中根サヨ子　96　豊田市　5・16

■祠堂　永代経のご志納

森下　興信　様　長篠町
森下登志夫　様　長篠町
高井　雅史　様　内幸町

※称念寺では毎年の春と秋のお彼岸に、故人の法名と命日が書かれた「永代経軸」を本堂余間に掲げ彼岸法要が勤まります。葬式等とは別に、永代供養の寄付金を納付された方に、寺が存続する限り永代にわたってお勤めがなされます。詳しくは個別にお問い合わせ下さい。

■新『おたいやカフェ』の予定

称念寺では毎月27日に、宗祖親鸞聖人のご命日前夜「おたいや」として簡素な法要を勤めてきました。今後は「おたいやカフェ」と改称し、正信偈のお勤めのあと、短い輪読や法話、その後に若院や役僧の若手僧侶と一緒にお茶など飲みながら、ゆるりと語り合いの時間を過ごすこととしました。基本は土・日を除く毎月27日、午前11時より約1時間で終了。どなたも参加費無料、お賽銭のみお願いいたします。

●6月　お休み
●7月27日（月）　11時から
※7月は前住職・伊勢研学の祥月法要を兼ねてのお勤めとなります。
●8月27日（木）　11時から

■仏具のおみがき

8月3日（月）
午前9時　於　本堂

■お盆法要

8月10日(月)午前8時・10時
法話　高柳正裕　師

■墓地（一向浄苑）申し経

8月13日(木)、14日(金)朝夕